

健康づくりは幸せづくり

Making Health  
is making happiness



第56期

中間株主通信

平成21年4月1日～平成21年9月30日



ゼリア新薬

ZERIA

## Z・E・R・I・A Five コーポレート・スピリッツ／企業理念



Z・E・R・I・A Five コーポレートスピリッツ／企業理念



株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

第56期中間（第2四半期連結累計期間）の事業概況に関しまして、ここにご報告させていただきます。

代表取締役社長

伊部 幸 顕

## Contents

株主の皆様へ.....	P.1
営業の概況（連結）.....	P.2
研究開発.....	P.5
財務諸表（連結）.....	P.6
クローズアップ.....	P.7
会社情報.....	P.9
株式情報／株主様ご優待のお知らせ... P.10	

# 営業の概況（連結）

## ●第2四半期までの業績

当第2四半期連結累計期間の売上高は、242億72百万円（前年同期比0.5%増）となりました。一方、利益につきましては、営業利益9億53百万円（前年同期比1.3%減）、経常利益9億68百万円（前年同期比4.5%増）、四半期純利益5億78百万円（前年同期比25.1%減）となりました。

なお、当期中間期の配当につきましては、前年度と同額の1株につき8円とさせていただきます。

## ●事業部門別状況

### ●医療用医薬品部門

当部門におきましては、プロモーションコードの遵守をもとに、MR（医薬情報担当者）の資質の向上と学術情報活動の一層の充実を図ってまいりました。

最重点領域と位置付けております消化器官用薬におきましては、営業力をこの領域に一層注力し、市場拡大に努めてまいりました。その結果、亜鉛含有胃潰瘍治療剤「プロマック®」は、市場浸透が進み売上は堅調に推移いたしました。しかし、H<sub>2</sub>受容体拮抗

剤「アシノン®」、胃炎・潰瘍治療剤「マーズレン®」などの製品は、市場競争の激化や後発医薬品（ジェネリック医薬品）の浸透の影響を受けて苦戦いたしました。

これらの結果、当部門の売上高は、143億65百万円（前年同期比5.8%減）となりました。

### ●コンシューマーヘルスケア部門

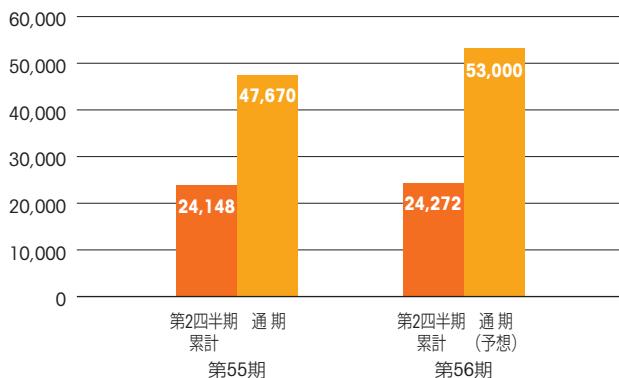
当部門におきましては、超高齢社会が進展する中、生活者のセルフメディケーションをサポートする製品の供給を通じて市場構築を進めてまいりました。

なかでも主力製品群である「コンドロイチン群」は、昨年度より実施しているテレビCMの効果などにより、製品認知度がさらに向上し売上が拡大いたしました。また、滋養強壮剤「ヘパリーゼ®群」や植物性便秘薬「ウィズワン®群」も順調に推移いたしました。

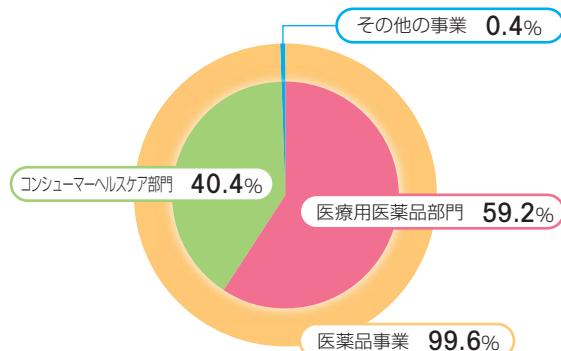
これらの結果、当部門の売上高は98億6百万円（前年同期比11.3%増）となりました。

## 連結売上高

（単位：百万円）



## 事業別売上高構成



# 営業の概況（連結）

## ● 研究開発の状況

研究開発部門におきましては、国際的に通用する新薬の創製を念頭に、自社オリジナル品の海外での臨床試験を積極的に推進するとともに、海外で実績のある薬剤を導入し、国内での開発を進めております。

最重要領域である消化器分野の新薬パイプライン強化に取り組む中で、平成20年4月に潰瘍性大腸炎治療剤として製造販売承認を申請しておりました、スイス・ティロツ社より導入した炎症性腸疾患治療剤「Z-206（アサコール®）」は、平成21年10月16日付で「アサコール®錠400mg」として製造販売承認を取得いたしました。また、同剤のクローン病適応については、平成19年1月に締結した共同開発および共同販売契約に基づき、協和発酵キリン株式会社と臨床試験の準備を共同して進めております。

日米欧3極で開発を進めている自社オリジナル品の「Z-338」については、アステラス製薬株式会社と平成20年3月に



締結した国内における共同開発および共同販売契約に基づき、機能性ディスペプシアを適応症としたフェーズⅢを実施しております。また、欧州で実施しておりましたフェーズⅡでは、有効性および安全性が確認できたことから、フェーズⅢ開始に向けた準備を進めております。米国では、実施許諾契約に基づきアステラス製薬株式会社がフェーズⅡを実施しております。

「Z-103（プロマック®）」につきましては、味覚障害を対象とした効能追加のフェーズⅢを実施しております。

「Z-360」は、欧州において膵臓癌に対するフェーズⅠb/Ⅱaを終了し、フェーズⅡ開始に向けた準備を進めております。また、「Z-100（アンサー®）」は子宮頸癌に対する追加フェーズⅢを引き続き進めております。



### 主要医療用医薬品等

種別	製品名
消化器官用薬	アシノン錠 (75mg、150mg)
	プロマック顆粒15%・D錠75
	アサコール錠400mg ※12月上市予定
	マーズレンS配合顆粒・配合錠ES
	ビジクリア配合錠
中枢神経系用薬	新レシカルボン坐剤
中枢神経系用薬	ベオン錠80
循環器官用薬	ランテル錠 (10、20、40)、ポリドカスクレロール (0.5%、1%、3%注2mL)
血液及び体液用薬	アンサー皮下注20μg
医療機器	アピテン、シリンジアピテン

### 主要一般用医薬品等

種別	製品名
代謝性用薬	コンドロイチンZS錠
	新ヘパリーゼプラス、新ヘパリーゼドリンク
	ハイゼリーB、新ローヤルゼレントB
滋養強壮剤	ハイゼリー顆粒、ハイゼリー散
胃腸薬	アシノン、ウイズワン、ウイズワンα、ウイズワンプラス、ウイズワンエル
中枢神経系用薬	セビーIPかぜゴールド (顆粒、錠)
医薬部外品	エナジカン、ビタヘルサン
外皮用剤	アポステイー (ローション・マイルドローション・モイスチャーローション・洗顔フォーム・クリーム)
	ドルマイシン軟膏、ドルマイコーチ軟膏
特定保健用食品	ウイズオブレ、ライフナビ食物繊維入りほうじ茶
栄養補助・健康食品	ヘパカン、新健康習慣シリーズ

独立行政法人科学技術振興機構の開発委託を受けたアレルギー性鼻炎治療剤「Z-207」は、フェーズⅠを実施しております。

平成19年8月にテムリック株式会社と共同開発および独占的販売契約を締結の上、導入した肝細胞癌用剤「Z-208」については、フェーズⅠ／Ⅱを進めております。

また、韓国SK Chemicalsは、平成18年2月に当社との間で締結した「プロマック®顆粒15%」の同国内における開発及び販売に関する契約に基づき開発を進めておりましたが、平成21年4月に胃潰瘍・胃炎治療剤として承認を取得いたしました。

なお、厚生労働省が未承認薬として開発企業を募集しております低リン血症性くる病を対象疾患とする経口リン酸塩製剤の開発に応募し、平成21年10月開催の厚生労働省・未承認薬使用問題検討会議において開発支援対象として採択され、開発の準備を進めております。

コンシューマーヘルスケア製品につきましては、当社の医療用医薬品である胃・十二指腸潰瘍、胃炎治療剤「アシノン®錠75mg/150mg」の成分であるニガチジンをOTC薬にスイッチしたH<sub>2</sub>ブロッカー胃腸薬「アシノン®Z胃腸内服液」、「アシノン®Z錠」(第1類医薬品)をはじめ、新製品、PB品を順次発売いたしました。

## ● 生産物流の状況

生産物流部門におきましては、品質の確保を第一として業務を進めてまいりました。なかでも、生産関連部門では、より高い品質の確保を目指すとともに原価の低減をメインテーマとして業務を進めてまいりました。一方、物流関連部門では、物流業務のアウトソーシングを実施する中、さらなる業務の効率化とコストの低減に努めてまいりました。

なお、当社の製商品の出荷は、これまで札幌・東京・大阪の3ヵ所の物流センターで実施しておりましたが、平成21年7月に新たに九州物流センター(佐賀県鳥栖市)を開設し、出荷を開始いたしました。今後も当社製商品の安定供給のため、物流サービスのさらなる向上を目指してまいります。

## ● 今後の事業方針

医療用医薬品業界におきましては、後発医薬品(ジェネリック医薬品)の使用促進などの医療費抑制策が引き続き推進されており、また、OTC医薬品(一般用医薬品)市場におきましても、景気低迷による個人消費の伸び悩みなどにより厳しい環境が続くことが予想されます。

このような状況のもと、医療用医薬品部門におきましては、多

様化する医療機関のニーズに応えるため学術情報活動の一層の充実を図るとともに、最重要領域である消化器官用薬に営業力を集中させ既存製品の売上拡大に努めます。また、平成21年12月に潰瘍性大腸炎治療剤「アサコール®錠400mg」の上市を予定しており、早期に市場浸透させ、収益性の向上を推進いたします。

コンシューマーヘルスケア部門におきましては、主力製品群である「コンドロイチン群」や滋養強壮剤「ヘパリーゼ®群」を中心に販売促進活動に努めてまいります。「コンドロイチン群」のテレビCMにつきましては、製品の認知度向上や市場拡大に成果が認められたことから、今後も引き続き実施してまいります。また、滋養強壮剤「ヘパリーゼ®群」につきましても平成21年11月よりテレビCMの開始を予定しております。

一方、改正薬事法に基づくOTC医薬品の新販売制度が平成21年6月に完全施行された中、セルフメディケーションの高まりに応えるスイッチOTC薬の販売促進を含めて、業界内での地位向上を目指してまいります。

研究開発におきましては、国際社会に貢献する新薬創出を目指して医療用医薬品の新薬パイプラインの一層の充実を計画しております。自社オリジナル品である「Z-338」につきましては、日米欧3極での開発を積極的に進め、早期の上市を目指してまいります。また、超高齢社会が進展する中、セルフメディケーションに貢献できるスイッチOTC薬等を含めたコンシューマーヘルスケア製品の開発を積極的に進めてまいります。

昨年子会社いたしましたイオナ インターナショナル株式会社とのシナジーを発揮するために、生産面においては化粧品関連製品の生産を同社に委託するとともに、同社への美容関連健康食品の提供などを進めます。また、平成21年9月にTillotts Pharma AGを子会社化したことにより、世界53カ国における販売権を取得した炎症性腸疾患治療剤「アサコール®」のアジアへの展開や、当社製商品の欧州・中東地域への販売等の分野でシナジーを高め、当社グループ全体の業績向上を目指してまいります。

さらに、会社法、金融商品取引法等の施行に対応した内部統制の運営を強化し、当社グループ経営の信頼性を一層高める努力を継続してまいります。

医薬品業界におきましても再編淘汰の動きが活発化する中、当社グループは、今後とも医薬品事業のみならず、その周辺事業も含めた分野において、企業提携等の実現に向け積極的な展開を計画しており、当社グループの企業価値向上に努めてまいります。

# 研究開発

当社における新薬のパイプラインは国内外を合わせて12テーマです。

## ● 研究開発の状況

### I. 国内開発状況

#### 1) 消化器系分野

(平成21年11月11日現在)

開発段階	開発番号/一般名	開発	適応症	作用機序および特長	備考
承認	Z-206/ メサラジン	自社	潰瘍性大腸炎	pH依存型放出制御製剤	導入 製品名 アサコール®
フェーズⅢ	Z-206/ メサラジン	共同開発 (協和発酵キリン)	クローン病	pH依存型放出制御製剤	導入 アサコール®効能追加
	Z-103/ ポラブレジンク	自社	味覚障害	亜鉛補充	導入 プロマック®効能追加
	Z-338/ アコチアミド	共同開発 (アステラス製薬)	機能性ディスペプシア	上部消化管運動改善作用	自社オリジナル
フェーズⅠ/Ⅱ	Z-208/ タミバロテン	共同開発 (テムリック)	肝細胞癌	レチノイン酸RAR $\alpha$ 受容体作動作用	導入

#### 2) その他の分野

開発段階	開発番号/一般名	開発	適応症	作用機序および特長	備考
フェーズⅢ 追加試験	Z-100	自社	子宮頸癌	免疫調節作用	自社オリジナル アンサー®効能追加
フェーズⅠ	Z-207	自社	アレルギー性鼻炎	粘膜組織凝固・収縮作用 エタノール・ステロイド配合剤	導入
開発準備中	Z-521	自社	低リン血症性くる病	リン酸補給	自社オリジナル 未承認薬開発支援対象

### II. 海外開発状況

開発段階	開発番号/一般名	開発	適応症	作用機序および特長	備考
承認 (韓国)	Z-103/ ポラブレジンク	導出 (SK Chemicals)	胃炎・胃潰瘍	胃粘膜保護作用	導入
フェーズⅢ準備中 (欧州)	Z-338/ アコチアミド	自社	機能性ディスペプシア	上部消化管運動改善作用	自社オリジナル
フェーズⅡ (北米)	Z-338/ アコチアミド	共同開発 (アステラス製薬)	機能性ディスペプシア	上部消化管運動改善作用	導出 自社オリジナル
フェーズⅡ準備中 (欧州)	Z-360	自社	膵臓癌	ガストリンCCK $_2$ 受容体拮抗作用	自社オリジナル

#### フェーズⅠ (第Ⅰ相臨床試験)

#### フェーズⅡ (第Ⅱ相臨床試験)

#### フェーズⅢ (第Ⅲ相臨床試験)

ご参考

動物実験を終えて効き目(有効性)と毒性が確認された「薬の候補」は、少人数の健康な方を対象に試験されます。安全性はもとより、どのくらいの時間で体内に吸収され、どのくらい体外へ排泄されるのかを調べます。

第Ⅰ相臨床試験で安全性が確認されたら、少数の患者さんで「薬の候補」の効き目(有効性)、副作用(安全性)、投与量、投与方法などの適切な使用方法を\*プラセボと比較しながら調べます。

多数の患者さんに投与することで、「薬の候補」の最終的な効き目(有効性)、副作用(安全性)、および使用方法を調べます。その際、「薬の候補」と現在使われている他の薬あるいは、\*プラセボと比較する試験を行います。多くの場合二重盲検比較試験と呼ばれる厳密な方法で実施されます。

\* プラセボ 有効成分を含まず、外見や味などで「薬の候補」と区別がつかない偽薬

# 財務諸表（連結）

## 四半期連結貸借対照表（要旨）

（単位：百万円、端数切捨て）

科目	期別	当第2四半期末	前期末
		平成21年9月30日現在	平成21年3月31日現在
<b>【資産の部】</b>			
<b>流動資産</b>		<b>27,746</b>	<b>24,828</b>
現金及び預金		3,520	2,812
受取手形及び売掛金		13,559	12,359
商品及び製品		3,483	3,189
仕掛品		559	500
原材料及び貯蔵品		2,594	2,059
その他		4,069	3,942
貸倒引当金		△40	△36
<b>固定資産</b>		<b>43,454</b>	<b>33,281</b>
<b>有形固定資産</b>		<b>20,007</b>	<b>19,891</b>
建物（純額）		6,324	6,263
土地		10,082	10,082
その他（純額）		3,600	3,545
<b>無形固定資産</b>		<b>11,880</b>	<b>1,664</b>
<b>投資その他の資産</b>		<b>11,566</b>	<b>11,725</b>
投資有価証券		5,904	5,660
その他		5,750	6,165
貸倒引当金		△88	△100
<b>資産合計</b>		<b>71,201</b>	<b>58,110</b>
<b>【負債の部】</b>			
<b>流動負債</b>		<b>35,577</b>	<b>21,836</b>
支払手形及び買掛金		5,267	4,966
短期借入金		25,744	12,880
その他		4,565	3,989
<b>固定負債</b>		<b>7,920</b>	<b>8,561</b>
社債		2,500	2,600
長期借入金		4,389	5,349
退職給付引当金		179	168
その他		851	443
<b>負債合計</b>		<b>43,497</b>	<b>30,398</b>
<b>【純資産の部】</b>			
<b>株主資本</b>		<b>29,146</b>	<b>28,907</b>
資本金		6,593	6,593
資本剰余金		5,414	5,414
利益剰余金		24,225	24,177
自己株式		△7,286	△7,278
評価・換算差額等		△1,443	△1,195
その他有価証券評価差額金		△1,443	△1,195
<b>純資産合計</b>		<b>27,703</b>	<b>27,711</b>
<b>負債・純資産合計</b>		<b>71,201</b>	<b>58,110</b>

## 四半期連結損益計算書（要旨）

（単位：百万円、端数切捨て）

科目	期別	当第2四半期累計（期間）	前第2四半期累計（期間）
		平成21年4月1日から平成21年9月30日まで	平成20年4月1日から平成20年9月30日まで
<b>売上高</b>		<b>24,272</b>	<b>24,148</b>
<b>売上原価</b>		<b>11,288</b>	<b>11,120</b>
<b>売上総利益</b>		<b>12,982</b>	<b>13,028</b>
<b>販売費及び一般管理費</b>		<b>12,028</b>	<b>12,062</b>
<b>営業利益</b>		<b>953</b>	<b>966</b>
<b>営業外収益</b>		<b>181</b>	<b>157</b>
<b>営業外費用</b>		<b>166</b>	<b>196</b>
<b>経常利益</b>		<b>968</b>	<b>927</b>
<b>特別利益</b>		<b>111</b>	<b>459</b>
<b>特別損失</b>		<b>86</b>	<b>24</b>
<b>税金等調整前四半期純利益</b>		<b>993</b>	<b>1,362</b>
<b>法人税等</b>		<b>414</b>	<b>590</b>
<b>四半期純利益</b>		<b>578</b>	<b>772</b>

## 四半期連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：百万円、端数切捨て）

科目	期別	当第2四半期累計（期間）	前第2四半期累計（期間）
		平成21年4月1日から平成21年9月30日まで	平成20年4月1日から平成20年9月30日まで
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		<b>1,934</b>	<b>23</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		<b>△12,693</b>	<b>△754</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		<b>11,466</b>	<b>124</b>
<b>現金及び現金同等物の増減額（△：減少）</b>		<b>708</b>	<b>△606</b>
<b>現金及び現金同等物の期首残高</b>		<b>2,670</b>	<b>2,352</b>
<b>現金及び現金同等物の四半期末残高</b>		<b>3,378</b>	<b>1,746</b>

## ■ Tillotts Pharma AG 完全子会社について

平成21年8月4日、当社は、潰瘍性大腸炎治療剤「アサコール®錠400mg」の開発会社であるTillotts Pharma AG（スイス連邦：以下、ティロツ社という）の全株式を取得する株式売買契約を締結。9月1日をもってティロツ社を100%子会社化しました。昨年10月に子会社化したイオナ インターナショナル株式会社に続きM&A第2弾を実現しました。今回のティロツ社のM&Aは、当社にとって初めての海外企業のM&Aで総買収額も約130億円と今までにない過去最大規模のM&Aになりました。

ティロツ社は、下部消化器分野、特にこの「アサコール®」に代表されるIBD（炎症性腸疾患）およびIBS（過敏性腸症候群）治療剤などに特化し、グローバル展開を指向するスペシャリティーマーファーマです。当社とは、平成16年1月に「アサコール®」の日本国内におけるライセンス契約を締結。以後、今日に至るまで良好な信頼関係を築いてきました。

ティロツ社の主力品である「アサコール®」は、昭和59年スイスで承認され、現在では、全世界60数カ国で、IBD治療剤として使用されています。IBD治療剤の最大のマーケットであるアメリカでは、市場の約5割の市場シェアを獲得している同分野でNo.1の治療剤です。また、全世界においても、同分野でトップシェアを獲得しています。

今回の子会社化により、ティロツ社が権利を譲渡したアメリカ・カナダなどを除いた、ティロツ社を通じて販売されているヨーロッパならび中東などを含む世界50数カ国の「アサコール®」の権利を当社が取得したことになります。また、ティロツ社が進める東南アジアなどを含めた新規地域への拡大を図るとともに、「アサコール®」の製品ラインアップの強化を加速することを計画しており、さらなる成長が見込まれます。

医療用医薬品事業において、消化器分野に特化している当社にとって、「アサコール®」ならびに同剤の製品ラインアップにより下部消化器領域が強化され同事業においてシナジーが期待できます。一方、コンシューマーヘルスケア事業においては、「コルベルミン®」など西洋ハーブを主成分とし新しいOTC医薬品（ダイレクトOTC医薬品）の開発を計画しており同事業においてもシナジーが期待できます。

さらに今後、ティロツ社の買収を、当社の本格的な国際展開の取っ掛けりにしたいと考えています。

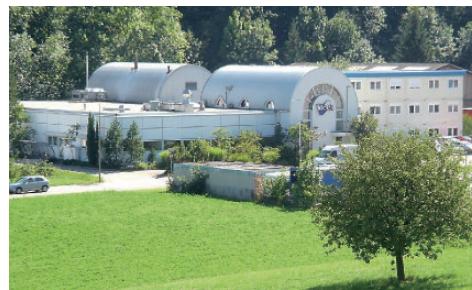
これにより、ゼリアグループの中・長期業績の向上に大きく貢献することが期待されます。ティロツ社のM&Aは、売上・利益に貢献でき、いろいろなシナジーが得られるM&Aということになります。



ティロツ社の買収の記者会見



 Tillotts Pharma AG



ティロツ社

## ■ 潰瘍性大腸炎治療剤「アサコール®錠400mg」製造販売承認を取得

平成21年10月16日、当社は、潰瘍性大腸炎治療剤「アサコール®錠400mg」（一般名:メサラジン、以下アサコール®という）に関し、厚生労働省から製造販売承認を取得しました。現在、年内上市に向け準備を進めています。

なお、当社は、アサコール®に関して平成19年1月に協和発酵工業㈱（現協和発酵キリン㈱）と締結した契約に基づき、薬価基準収載後に1ブランド・2チャンネルの共同販売を行います。また、同契約により潰瘍性大腸炎を対象とする臨床開発は、当社が単独で行いましたが、クローン病を対象とする臨床開発は、両社共同で実施しております。

アサコール®は、メサラジンにpH依存型放出制御特性を持たせたコーティングを施した腸溶製剤であり、本剤は下部消化管（回腸末端～大腸）に到達してから薬効成分を放出する製剤設計となっているため、特に炎症性腸疾患の下部消化管病変への効果が期待されます。

潰瘍性大腸炎は、大腸の粘膜に炎症が起き、潰瘍やびらんが肛門から口側に向かって連続的にできる疾患です。激しい腹痛や下痢などの症状が現れる「活動期」と症状がほとんど消失している「寛解期」を繰り返すことが多い難治性の疾患です。遺伝的要素、免疫の異常、食事などの環境因子など、いくつかの因子が指摘されていますが、まだ原因は解明されておりません。国内の患者数は、毎年増加傾向にあります。

今回の製造承認取得により、同剤が潰瘍性大腸炎の薬物治療の選択肢を広げ、患者さんのQOL改善に貢献できるものと期待しています。



「アサコール®錠400mg」

## ■ 「新ヘパリーゼ® ドリンク」テレビCMを関東地区からスタート

昨年に続き、石原良純さんを起用した「コンドロイチンZS錠®」テレビCMの放映により、製品認知が更に進み、この中間期の売上は大きく伸ばしました。今季は「コンドロイチンZS錠®」に次ぎ、「新ヘパリーゼ®ドリンク」のテレビCMを開始します。今期は、関東地区に限定して11月下旬から展開します。内容は、コアのターゲット層であるサラリーマンが登場し、予想外のダンスパフォーマンスを盛り込んだコミカルな仕上がりとなっています。テレビCMは「新ヘパリーゼ®ドリンク」の認知度向上および売上の増大が早期に見込まれる関東地区で展開します。「肝臓水分解物が効く、医薬品」「飲む人に、効く。Oh！ヘパリーゼ」をキャッチコピーに競合品との差別化を図り、TVCMに連動した交通広告やWeb広告、インスタプロモーションも積極的に展開します。肝臓などからの疲れにフォーカスした滋養強壮ドリンク剤としてトップシェアを目指していきます。



「コンドロイチンZS錠®」  
テレビCM



「新ヘパリーゼ®ドリンク」  
テレビCM



「新ヘパリーゼ®ドリンク」  
ポスター

# 会社情報 (平成21年9月30日現在)

## 会社概要

創 立	1955年12月
資 本 金	6,593,398,500円
社 員 数	1,303名 (連結)
主な事業内容	1. 医薬品、医薬部外品、試薬の製造、販売及び輸出入 2. 化粧品、健康食品、清涼飲料、衛生雑貨、医療機器の製造、販売及び輸出入

## 役員

代表取締役社長	伊 部 幸 顕
専務取締役	斎 藤 武
常務取締役	長 江 晴 男
常務取締役	遠 藤 広 和
常務取締役	降 旗 繁 弥
取 締 役	大 野 晃
取 締 役	熊 井 雅 一
取 締 役	永 谷 康 典
取 締 役	小 野 宏
取 締 役	菅 幹 雄
取 締 役	森 山 茂
取 締 役	竹 内 治 之
取 締 役	岸 本 誠
取 締 役	平 賀 義 裕
取 締 役	橋 本 暢 仁
監 査 役	浜 野 峻 至
監 査 役	花 田 雅 彦
非常勤監査役	小 森 哲 夫
非常勤監査役	中 由 規 子

## 事業所

● 本社	● 京滋北陸営業所
● 札幌支店	● 中四国支店
● 仙台支店	● 岡山営業所
● 東京支店	● 高松営業所
● 東京第3営業所	● 福岡支店
● 神奈川営業所	● 中央研究所
● 埼玉営業所	● 埼玉工場
● 千葉営業所	● 筑波工場
● 北関東営業所	● 東京物流センター
● 甲信越営業所	● 札幌物流センター
● 名古屋支店	● 埼玉物流センター
● 大阪支店	● 大阪物流センター
● 大阪第2営業所	● 九州物流センター
● 神戸営業所	
● 出張所	

青森・郡山・宇都宮・関越・静岡・金沢・山口・米子・松山・高知・長崎・熊本・大分・鹿児島・沖縄

## 連結子会社 4社

### Tillotts Pharma AG

資本金 164万CHF (持株比率100%)  
事業内容 IBD (炎症性腸疾患) および IBS (過敏性腸症候群) 治療薬の製造・販売

### ゼリアヘルスウェイ株式会社

資本金 85百万円 (持株比率100%)  
事業内容 健康食品の仕入・販売

### イオナ インターナショナル株式会社

資本金 2億円 (持株比率100%)  
事業内容 化粧品・医薬部外品の製造・販売他

### 株式会社ゼービス

資本金 1億80百万円 (持株比率100%)  
事業内容 保険代理業・不動産業など

## 株式の状況

①発行可能株式総数	119,860,000株
②発行済株式総数	48,290,173株
③株主数	3,700名

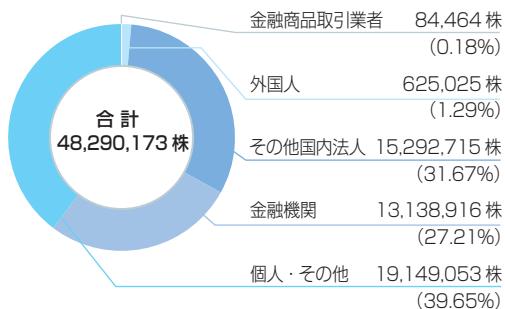
## 大株主

株主名	持株数(株)	出資比率(%)
有限会社伊部	5,510,770	13.3
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,915,500	4.6
森永乳業株式会社	1,854,741	4.5
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	1,714,000	4.3
ゼリア新薬工業従業員持株会	1,675,417	4.1
伊部 幸顕	1,427,425	3.5
株式会社三井住友銀行	1,278,301	3.1
株式会社みずほ銀行	1,278,230	3.1
株式会社りそな銀行	1,074,896	2.6
あいおい損害保険株式会社	858,671	2.1

(注)出資比率については、自己株式(6,919,688株)を控除して算出しております。

## 所有者別株式分布状況

株式数構成比



当社は、株主の皆様の日頃のご支援・ご協力への感謝の印として、株主優待制度を行っており、5つのコースから、ご希望のいずれかををお届けいたします。ご試用によって、当社の幅広い製品構成をご理解いただきたく、よろしく願い申し上げます。



# 株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 毎年6月下旬
- 基準日 定時株主総会・期末配当 毎年3月31日  
中間配当 毎年9月30日
- 株主名簿管理人 東京都港区芝三丁目33番1号  
中央三井信託銀行株式会社
- 郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
中央三井信託銀行株式会社 証券代行部  
(電話照会先) 電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル)  
取次事務は中央三井信託銀行株式会社の本店および  
全国各支店ならびに日本証券代行株式会社の本店および  
全国各支店で行っております。
- 住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について  
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。  
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座  
の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。
- 未払配当金の支払について  
株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

最新のIR情報は当社ホームページをご覧ください。

URL <http://www.zeria.co.jp/>



当社ではスピーディーに正確な情報をご提供するため、ホームページを開設しております。株主・投資家の皆様向けのIR情報から最新のニュースまで幅広い内容となっておりますので、ぜひ一度、ご覧ください。



## ゼリア新薬工業株式会社 お客様相談室

〒103-8351 東京都中央区日本橋小舟町10-11  
TEL 03-3663-2351 (代表) FAX 03-3663-2352  
03-3661-2080  
<http://www.zeria.co.jp/>